

# 日本語教育能力検定試験

## 合格必勝法



## 目次

1. 日本語教育能力検定試験を知る（1）－出題範囲	3
2. 日本語教育能力検定試験を知る（2）－合格点、合格率	6
3. 日本語教育能力検定試験を知る（3）－受験回数	9
4. 日本語教育能力検定試験を知る（4）－問題数と解答時間	11
5. 行動する限り、失敗はない。	13
6. 日本語教育能力検定試験、失敗する勉強法5選	15
7. 勉強を続ける技術（1）－継続は時間割作りが8割。	23
8. 勉強を続ける技術（2）－行動が先、やる気が後。	27
9. 勉強を続ける技術（3）－独学を一人でしない。	30
10. 勉強を続ける技術（4）－学習記録をつける。	32
11. 勉強を続ける技術（5）－学習環境を整える。	34
12. 勉強を続ける技術（6）－合格した姿をイメージする。	37
13. 令和4年新出題範囲の新傾向・変更点（1）	39
14. 令和4年新出題範囲の新傾向・変更点（2）	41
15. 令和4年新出題範囲の新傾向・変更点（3）	43

## 日本語教育能力検定試験を知る（1）－出題範囲

検定試験の勉強を始める際に、まずもってやらなければならないのは、  
【検定試験を知る】ということです。

具体的には、試験実施団体である JEES の公式サイトをチェックすることです。

JEES 日本国際教育支援協会日本語教育能力検定試験

<http://www.jees.or.jp/jltct/>

直近の（2022年11月4日現在。最新はJEESのサイトをご参照ください。）のものを  
見てみましょう。

令和4年度日本語教育能力検定試験実施要項

[http://www.jees.or.jp/jltct/pdf/R4jisshiyoko\\_3.pdf](http://www.jees.or.jp/jltct/pdf/R4jisshiyoko_3.pdf)

まずは目的。

---

### ■ 目的 ■

日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者を対象として、日本語教育の実践につながる体系的な知識が基礎的な水準に達しているかどうか、状況に応じてそれらの知識を関連づけ多様な現場に対応する能力が基礎的な水準に達しているかどうかを検定することを目的とする。

---

基礎的な知識、そして現場対応能力。

この辺りが問われるんですね。

次に、試験の構成。試験 I から試験 III まであります。試験 I と試験 III はマークシート方式の試験ですが、試験 III には、最後に 400 字程度の記述問題があります。また、試験 II は音声による試験です。これらを丸 1 日かけてやります。なので、まずは丸 1 日頑張れるだけの体力を身につけるということが大切です。といっても、ジョギングや筋トレをする必要ありません。

試験までに、何度か過去問等を使って、本番さながらに模擬試験をやって、時間感覚を身につけてください。

それから、試験の時期や受験地のチェックもお忘れなく。

特に試験会場は、新型コロナの影響で地方でも会場が複数になることがあります。

そして、出題範囲。かなり出題範囲が広いと思われたのではないのでしょうか。検定試験は、出題範囲が非常に広いというのが大きな特徴です。

ということは、早め早めに取り組んで、(というか、今すぐ始めて) 十分な学習時間を確保するというのがとても重要です。私は、検定試験の勉強に必要な学習時間として、1,000時間を推奨しています。

「そんなに！」

と思われるかもしれませんが、合格者の多くはそれぐらい勉強しています。

もちろん1,000時間勉強しないと合格できないというわけではありませんが、1つの目安として有効です。

なので、ご自身で1週間の学習時間を検討してみて、どれくらいのスパン(例えば1年とか2ねんとか)で学習を進めたらいいか計画を立ててみましょう。

無理に短期決戦で臨んでも、途中で息が切れてしまつては、意味がありません。

それから、出題範囲は大きく

「社会・文化・地域」

「言語と社会」

「言語と心理」

「言語と教育」

「言語一般」

という5つの領域に分かれています。

特に、「言語と教育」と「言語一般」が2大柱で、この両領域を制覇できるかどうか、合否に直結するといっても過言ではありません。

また、表の中の「主要項目」の中に太字で書かれている項目があります。これらは「基礎項目」といって、検定試験で優先的に出題される項目です。見てみるとわかりますが、「言語と教育」と「言語一般」の項目のほとんどが「基礎項目」です。

いかに両領域が重要かご理解いただけるでしょう。

ですが、このように言うと、

「じゃあ、基礎項目だけ拾って勉強すればいいじゃん。」

そう思われるかもしれません。

ですが、そのような勉強法では合格はおぼつきません。なぜなら、基礎項目以外の項目も当然出題されるからです。

ですので、「全範囲をまんべんなく勉強しながらも、基礎項目は絶対に落とさないように勉強する。」というのが正解です。

## 日本語教育能力検定試験を知る（2）－合格点、合格率

「日本語教育能力検定試験」と言って皆さんが一番気になるのは、やはり【合格点は何点か】ということでしょう。

実は、本試験では「合格は何点以上」という明確な基準は出されていません。

ネット上では、試験後に、

「私は今年、●●点で合格したから、合格最低点は何点だ。」

とか、

「今年の合格最低点の推計値は●●点だ。」

といったコメントが飛び交いますが、これらはすべて推測であって、実施団体の公式見解ではないので、私は、こういうコメントにあまり振り回されるべきではないと考えています。

こんなことに一喜一憂する暇があったら、10分でも勉強したほうが合格に近づきます。

ただ、これまでの経験から言うと、概ね75%以上が合格圏内だろうと考えます。

各試験科目の配点は、それぞれ

試験 I 100 点

試験 II 40 点

試験 III 100 点

計 240 点ですので、180 点以上が 1 つの目安になります。

ただし、合格最低ラインは年によって変動すると思われるので、合格確実というわけではありません。

また、本試験では、緊張したり、慌てたりで実力を100%発揮できるとは限りません。

もちろん、満点を目指す必要はありませんが、自信をもって本試験に臨みたいのであれば、85%~90%を目指して勉強することをお勧めします。

次に、合格率。

これについては、下記公式ページで公表されているデータから割り出すことができます。

日本国際教育支援協会>日本語教育能力検定試験>応募者・全科目受験者・合格者数推移

<http://www.jees.or.jp/jltct/pdf/R3obosya.pdf>

このグラフを見てみると、平成26年から受験者数がうなぎ上りに上昇していることがわかります。

直近の令和3年は、前年より下がりましたが、このコロナ禍での実施を考えると、やはり高水準です。そして、過去5年の合格率を割り出してみると、

◆2017年

- ・受験者数 5,733名
- ・合格者 1,463名
- ・合格率 25.52%

◆2018年

- ・受験者数 6,801名
- ・合格者 1,937名
- ・合格率 28.48%

◆2019年

- ・受験者数 9,380名
- ・合格者 2,659名
- ・合格率 28.35%

## ◆2020年

- ・受験者数 9,033名
- ・合格者 2,613名
- ・合格率 28.93%

## ◆2021年

- ・受験者数 8,269名
- ・合格者 2,465名
- ・合格率 29.81%

概ね25%～29%台で、特に平成30年から合格率がクッと上がったことが分かります。

とはいえ、合格者は3.5人に1人という割合ですので、決して易しい試験ではありません。

従って、膨大な試験範囲も含めて考えれば、

**【できるだけ早く試験勉強を始め、本試験まで継続的に勉強を続ける。】**

ということが、合格への確実な方法と言えるのです。

### 日本語教育能力検定試験を知る（3）－受験回数

「検定試験を受験する人は、何回ぐらい受験しているのかしら。」

気になる方もいらっしゃると思います。

「みんな、初回でさっさと合格しているのかなあ。」

そう思われる方もいらっしゃるかもしれませんね。

実は、こういうデータも実施団体である日本国際教育支援協会（JEES）では公表されています。

こちらです。

日本語教育能力検定試験 全科目受験者受験回数別数 推移

<http://www.jees.or.jp/jltct/pdf/R3jyukenkaisuhi.pdf>

令和3年の結果を見ると、全科目受験者8,296人のうち、

初回 5,216人

2回目 1,799人

3回目 748人

4回以上 468人

となっています。

このようにみると、

「やっぱり2／3の人は一発合格なんだなあ。」

と思われるかもしれませんが、それは大きな誤解です。

なぜなら、8,296人はあくまでも受験者の数であり、合格者の数ではないからです。

令和3年(2021年)の合格率は、わずか29.81%。

毎年70%以上の受験生がふるい落とされているわけです。

この傾向は、例年、ほぼ同様であることから考えると、

初回受験でダメだったら、すぐ見切りをつけて諦めてしまう受験生が多い、ということです。

「初回で合格できなかったら、自分にこの資格は向いていない。」

と思ってしまうのでしょうか。

ですが、これは一番もったいない。

なぜなら、途中で諦めたら、今までの努力が水の泡になってしまうからです。

あと1年頑張れば、余裕で合格できるかもしれない。それなのに、途中で諦めたら、結局、今まで何もしなかったことと同じです。

今まで、いくら勉強していたとしても、途中で諦めたら、その時間、せんべいを食べながらテレビを見ていたのと同じということです。こんなもったいない話がありますか。

大事ななのは、【初回で】合格することではありません。受験回数に関係なく、【合格すること】が大事なのです。検定試験は、合格に必要な勉強をすれば、誰でも合格できます。

2年前、私が大学で指導した台湾の留学生も、この検定試験に合格しました。日本人ではありません、留学生です。

必要な勉強をすれば、誰でも必ず合格できます。

一緒に頑張っていきましょうね(^\_^)

## 日本語教育能力検定試験を知る（４）－問題数と解答時間

昨年、検定試験を初めて受けたという複数の方から、こんな話を聞きました。

「試験中、時間が余ったので『余裕だなあ。』と油断していて、試験終了間際に解答用紙をひっくり返したら、裏にもまだ解答欄があった。そこで時間になりました(>\_<)」

何ということ(>\_<)

私はすかさず、

「過去問を使ったりして、本番さながらの模擬試験をしなかったんですか。」

と聞いたら、しなかったとのこと。

つくづく何ともったいないことを(>\_<)

こういうことがあるから、事前に何度か模擬試験はやっておくべきなのです。

では、検定試験では実際何問出題されるのでしょうか。

ちなみに、平成２年度では、

試験Ⅰ（90分）100問

試験Ⅱ（30分）40問

試験Ⅲ（120分）80問＋記述問題

でした。

例年この枠組みは、ほとんど変わっていません。

マークシートの問題は全部で220問。

仮に記述問題に20分かけるとすると、マークシート問題にかけられる解答時間は220分。

とすると、1問にかけられる時間は平均ぴったり1分。

1問1分のペースで解いていかなければ、制限時間内に全問題を解き切ることはできないわけですね。

これは、結構厳しい時間設定です。

簡単な問題であれば、数秒で答えられますが、ちょっと考え込むと1分なんてあっという間。

だから、本試験では、

逆説的な言い方ですが、あまり考えなくても条件反射的に正解を選べるくらいにまで、しっかり知識を仕上げておく必要があるのです。

どういうことかというと、

「出題範囲を一通り勉強した。やれやれ。」

というレベルでは全然ダメで、

「もう5回も10回も繰り返し読み込んだから、300ページあるテキストのどこに何が書いてあるか、その文言までだいたい覚えちゃったよ。」

ぐらいのレベル感が求められるということなんですね。

少なくとも、本試験では時間いっぱいかかると見積もっておいた方が無難です。

「初めての試験なのに時間が余ってしょうがなかったよ。」

と思いながら、試験終了直前に、

「おー！裏にも解答欄があるー！！」

なんてことにならないように、今からしっかり準備をしていきましょう。

## 行動する限り、失敗はない。

「どうしても今年の検定試験に合格したい。

とはいえ、平日は仕事があるから学校に通うことはできないし、費用もできるだけ抑えたいので、まずは自分の力でできるだけやってみよう。」

そう考え、独学で勉強を始める方も多いことでしょう。

それ自体は、決して悪いことではありませんし、実際、独学で検定試験に合格なさる方もたくさんいらっしゃいます。

とは言うものの、

「独学で合格まで続けられるのか。途中で諦めてしまうんじゃないか。」

と、今一步踏み出せずに逡巡している方もいらっしゃるでしょう。

こういう方は、

「下手な行動をとって、失敗したくない。」

という意識が強いのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

ですが、行動し続ける限り失敗はありません。

そもそもたった1つの行動で即合格に繋がることはありませんし、行動しても最初からうまくいくわけなどなく、勉強方法や教材選びも、どんどん自分仕様にカスタマイズして、自分なりの最適解を探っていく必要があります。

つまり、一定の試行錯誤は絶対的に必要なんですね。

しかしながら、それは行動するからこそ見えてくるもの。

行動せずに頭の中だけで考えてもそもそも未経験のことなわけですから結論など出るわけがないのです。

そして、私の 25 年の経験上言えることは、そうやってなかなか行動できない方に限って、本試験受験直後に、

「もっと早く始めておけばよかった。」

とおっしゃるのです。

厳しい言い方かもしれませんが、私は毎年そういう方を見てきているので、あえて申し上げる次第です。

何ととっても、合格率 20% 台となかなか厳しい試験です。

私は常日頃から、合格に必要な学習時間として 1000 時間を謳っていますが、これは決して大げさな数字ではありません。

今から始めても、決して早いわけではありません（むしろ微妙に遅いくらい）。

まだ行動していないのであれば、今すぐ行動しましょう。

行動し続け、変容し続ける限り失敗はありません。

逡巡して前に進まないその時間こそが一番もったいない。

検定試験合格に向け、今すぐ行動しましょう。

## 日本語教育能力検定試験、失敗する勉強法 5 選

日本語教育能力検定試験受験指導を 20 年以上やっていると、合格者、不合格者のデータが自然と蓄積され、

「この人は、合格するな。」

とか、

「この人は、危ないかな。」

というのが、なんとなくわかるようになりました。

そして、結果を残せない方には、ある共通の特徴があります。

そこで、今回は

「失敗する勉強法 5 選」

と題して、結果が残せない勉強法を数回にわたってご紹介します。

ぜひ、ご自身の今までの勉強法を見直してみてくださいね。

### 1. 失敗する勉強法（その 1）

【そもそも勉強量が少なすぎる。】

「それを言っちゃ、おしまいよ。」

と思われるかもしれませんが、合格する人と合格できない人では、圧倒的に勉強量が違います。

私は常々、

「合格に必要な学習時間は 1000 時間」

と言っていますが、合格する人は1000時間程度は普通にこなしています。

中には、

「そんなにやってない。」

という方もいるかもしれませんが、そういう方は、卓抜した判断力や類推力の持ち主か、試験勉強をする前に、大学等で相応の勉強をしたことがある方です。

知識ゼロから勉強するのであれば、

「合格には1000時間かかる。」

と腹をくくり、それに沿って学習計画を立て、実行することが肝要です。

## 2. 失敗する勉強法（その2）

【短期決戦でやろうとする。】

「ゼロから3か月で合格したいんです！」

こういう方、本当に多いです。こういう方は、

「熱しやすく冷めやすい」

タイプの方が多いようです。

もちろん、これ自体悪いことではありません。短期で合格できればそれに越したことはありませんから。

問題なのは、短期決戦で結果を出すためには、中長期的な取り組み以上に多大な労力がかかるということに、あまり目が行っていないという点。

どういうことかという、例えば1000時間学習するとして、それを500日かけてやるのであれば、

1000 時間 ÷ 500 日 = 2 時間

すなわち、1 日 2 時間程度の勉強で OK という計算になります。

実際、個人差はあれ、だいたいこれぐらいのペースで大丈夫でしょう。

同様に、100 日かけて勉強するとすれば、

1000 時間 ÷ 100 日 = 10 時間

すなわち、1 日 10 時間程度の勉強が必要となります。

だいたいこの時点でほとんどの方は「無理！」となるわけですが、仮にそれができたとして、合格レベルに到達できるかという点、正直むずかしいかなと思います。

なぜなら、

「短期決戦だと、知識が頭に馴染む時間が少ないから。」

中長期に取り組めば、勉強以外の時間に、脳内で知識が徐々にこなれて馴染んでいく時間を確保することができます。

実は、この「無用の用」的な時間が非常に重要なのです。

となれば、1 日 10 時間では 100 日やっても合格は難しく、さらに知識が頭に馴染む時間を意図的に設けなければいけません。

それは、かなり難しいこと。

ですので、学習期間は最低でも 1 年、できれば 2 年程度確保なさるのがお勧めです。

### 3. 失敗する学習法（その 3）

【反復学習をしない。】

こういう方も、案外多いように思います。

中には、教材を買っただけで勉強したような気になっている方も(笑)

また、

「いや、私はテキストを繰り返し勉強した。」

という方もいらっしゃいますが、よくよく聞くと、繰り返したのは2～3回。

しかし、それでは知識が十分脳内にインストールできたとは言えないでしょう。

私が勧めるのは、最低5回です。

最低5回繰り返し読み込まなければ、よほどの天才ではない限り、その教材の情報を十全に脳内に叩き込むことはできません。

例えば、通信講座「篠研の日本語教育能力検定試験対策」の場合、WEBコース全体でスライド枚数にして約3000枚の講義資料があります。

一通り読んでも、正直

「読んだそばから忘れてしまう。」

といった感覚でしょう。

イメージとしては、講義資料を読むたびに、脳内に知識という名の点を打っているような感じです。

そして、2巡目を読み終えても、多くの方は

「なんか以前も読んだような気がするけど、はっきりとは覚えていない。」

といった感じだろうと思います。

ただ、感覚的にはそうでも、実際は確実に1巡目以上の膨大な知識が脳内にインプットされています。

イメージとしては、1巡目の点が少し大きくなったのと、それに加えて、さらに多く

の点が脳内に刻まれていく感じでした。

続いて、3巡目を読み終えるころには、

「おー！だんだんわかってきた。検定試験の輪郭がつかめてきた。」

「個別のキーワードの理解から、各テーマごとの知識がまとまって分かるようになってきた。」

そんな感覚になると思います。

イメージとしては、1巡目、2巡目の点がより大きくなり、さらに、3巡目の点が増えていくといった感じです。

このあたりから、検定試験の試験Iの問題が解けるようになります。

さらに、4巡目になると、知識の点がより増えると同時に、点と点がつながり、ネットワークを張るようになります。

実は、3巡目でも同じようなことが起こっているのですが、3巡目のネットワークは、あくまでも近場の点同士のつながり。

これが、4巡目になるとテーマを越え、さらには5つの出題領域（言語一般、言語と教育、言語と心理、言語と社会、社会・文化・地域）を越えてつながるようになります。

その結果、例えば、

「なるほど！日本語の文に主語がないのは、日本人の世界認識と関係があるのか！」

とか、

「グライスの協調の原理って、初級クラスのコミュニケーションの仕方に使えるなあ。」

といったことが見えてきます。

前者は、文法（言語一般）と認知（言語と心理）とが結びついた例ですし、後者は、語用論的規範（言語一般）と初級の指導法（言語と教育）とが結びついた例です。

こうなると、だんだん勉強が面白くなってきます。

そして、5巡目になると、もはやどこに何が書いてあるのか、おおかた分かる段階。

この段階になると、知のネットワークがさらに密に張られ、縦横無尽に知識を組み合わせ、アウトプットすることができるようになります。

この段階になると、検定試験の試験 III が面白いように解けるようになります。

いかがでしょうか。反復学習のイメージがつかめましたでしょうか。

反復と言っても、ただ漫然と同じことを繰り返すものではありません。

同じような作業をしているようでいて、実は、その都度高度な認知活動へと昇華していつているのです。

「学びは漆塗り」

と言います。

ぜひ、しっかりと反復学習をして、知識に磨きをかけていってくださいね。

#### 4. 失敗する学習法（その4）

【学習プロセスを楽しまない。】

「何を甘いことを言っているんだ！難行苦行を乗り越えてこそ、勉強じゃないか！」

そんな声が聞こえてきそうですが、それは、勉強に対してかなりの誤解があると思われます。

勉強というのは、本来知らないことを知ることによって、

**【感動、驚き、共感、納得】**

を体感したり、できないことができるようになることによって、

**【自尊心や自己肯定感】**

が得られるなど、心身ともに豊かになる営みのはずです。

もちろん、しんどい時はあります。

ですが、それ以上の満足感や充実感があるから続けられるんですね。

もし、試験勉強が単なる難行苦行であるなら、そもそも試験勉強に前向きに取り組もうとは思わないですし、そう思わなければ、工夫も生まれず、結果もついてきません。

学びを楽しめない方が、教壇に立ったとしても、その授業内容は推して知るべし。

実際、学びのプロセスを楽しむことなく合格した方は、合格と同時に燃え尽きてしまう方が多いように思います。

勉強は、楽しんだ者勝ちです(^\_^)

**5. 失敗する学習法（その5）****【自分を第三者的に見られない。】**

「メタ認知」という言葉があります。

これは、平たく言えば、勉強している自分自身を上から眺めているような視点を持つということです。

つまり、自分自身の勉強スタイルや性格などを、より客観的に分析する目を持つということですね。

例えば、

「自分は45分以上勉強すると、一気に集中力が落ちるから、45分ぐらい勉強したら10分休憩しよう。」

とか、

「私は、1人で勉強するより誰かと一緒に勉強したほうが調子上がるから、定期的に勉強会に参加しよう。」

などです。

このように自分を客観的にみる視点を持つと、スランプから脱出しやすくなるなど、心身ともに自分をコントロールしやすくなり、結果、試験勉強も無理なく効率的に進めることができます。

「私には、そんな高度なことはできない。どうしたらいい？」

という方は、学習記録をつけるといいでしょう。

毎日、何時から何時まで、テキストの何ページから何ページまでやって、こんなことが分かった、ここがまだよくわからないと、些細なことでもいいので、できるだけ詳しく記録するのです。

そして、ある程度まとまったら、過去の記録を読み直してみましよう。

そうすれば、自分に最適な学習ペースや調子の良さあしのリズムなどが分かり、それに合わせて、学習計画を最適化していくことができます。

ぜひ試してみてください。

以上、

#### 【日本語教育能力検定試験、失敗する勉強法5選】

をお届けしてきました。これはあくまでも、私の独断と偏見でのランキングですが、ご参考になれば幸いです。

検定試験合格に向けて、しっかり頑張りましょう。

## 勉強を続ける技術（1）－継続は時間割作りが8割。

検定試験を目指そうという方の中に、

「自分は何事もなかなか続かない。意志が弱くて続けるのが苦手だ。勉強を始めてもやりきれぬかどうか不安だ。」

という方がいらっしゃいます。

続ける自信がないため、

「次もどうせダメかも。」

と、思って、なかなか最初の一步が踏み出せないんですね。

そうこうしているうちに、どんどん機会損失をしているわけですから、実は一番もったいない。

で、そういう方の多くは、これまでの人生で

「続かなかった経験が多かった。」

と、思われている場合が多いようです。

そして、その原因を「自分の意志の弱さ」だと思っているんですね。

結論から言いますが、継続力は意志の強さとはほとんど関係がありません。

### 【続ける仕組み】

を持つかどうかにかかっています。

つまり、マインドではなくスキルです。

もしも、今まで続けることができなかつたのであれば、それは意志が弱かつたからで

はなく、たまたま

【続ける仕組み】

作りに思考が及ばなかつただけなのです。

そこで、今回から数回にわたって

【勉強を続ける技術】

をお伝えしたいと思います。

第1回は、「継続は時間割作りが8割」。

時間割というと、まるで子どものようですが、この技術の威力は絶大です。

そもそも、わたしたちはどうして小中学校計9年間も、途中でやめることなく、膨大な量の勉強をし続けることができたのでしょうか。

しかも、毎日毎日飽きることなく（飽きることもあったけど(笑)）4つも5つもいろいろな科目を勉強できたのか。

それは、「時間割」があったからです。

「この曜日のこの時間は、この教室でこの科目の勉強をする。」

それが、最初から決められていたからです。

ここがすごく重要で、つまり

「勉強するか否か、勉強する時間、勉強する場所、勉強する内容について考える労力を省き、あとは、行動するだけの状態にしている。」

ということなのです。

これが【続ける仕組み】です。

大人になってなかなか続けられないのは、いちいち

- ▼するか否か
- ▼いつするか
- ▼どこですか
- ▼何をするか

を考えないといけない状況に身を置いているから。

そのため、

- ▼するか否か →今日はやめとこ。
- ▼いつするか →とりあえず明日から。
- ▼どこですか →まず部屋を掃除しよ。
- ▼何をするか →どの問題集もめんどくさそう。

となり、結果、行動が先延ばしになるのです。

だから、「時間割を作る」というのは非常に重要なんです。

それだけに、篠研の通信講座でも最初のオリエンテーションで時間割の作り方をご案内している次第。

では、次に作り方をお伝えします。

まず、スケジュール表を作ります。  
横の列には曜日、縦の列には時間。

次に、仕事やご家族の世話など、どうしても外せない予定を書き込みます。

そして、空き時間の中で勉強できる時間帯を書き加えます。

つまり、勉強時間を天引きするわけですね。

そして、1週間の総学習時間を計算し、それが、満足なものか確認してください。

ちなみに、合格に必要な総学習時間は推奨 1,000 時間です。

また、その際、できれば1回の学習時間は一定の方がいいです。

集中力が続かない方は1時間単位、続く方は1時間半単位など。

自分にとって、ちょうどいい学習時間を知ることは、継続する上でとても大事です。

そして、どこですか、何をすることも決めます。

つまり、

「この時間になったら、この場所でこの勉強をする。」

ということを中心にロックするんですね。

後は、行動するのみです。

それから、もう1つ大事なことは、急な用事が入って予定通りにいかなくても挽回できるよう、1週間に最低1日はバッファ（予備日）を作りましょう。

続かない方によくみられるのは、1週間ぎっちり予定を組み、予定通りにいかなかったときに気持ちが切れて、完全にやめてしまうこと。

途中でやめてしまっちは、元も子もありません。

また、一度時間割を作ったからといって何がなんでも守らなければならないというわけではありません。

実際にやってみて、無理なようであれば、適宜修正してください。

こうして、自分に合った適切な時間割ができれば、8割継続できたも同然です。

まずは、時間割を作ってみてくださいね。

## 勉強を続ける技術（２）－行動が先、やる気が後。

「勉強しないといけないと思うんだけど、なかなかやる気が出なくて。」

という方がいます。

おそらくそういう方は、

「勉強はやる気が出てからするもの。」

という考えがあるのでしょうか。ですが、この考え方は間違っています。結論から言うと、

「行動することで、それにつられてやる気が出てくる。だから、まずは四の五の言わずに勉強すべし。」

です。

やる気があるがなかろうが、時間になったら四の五の言わずに行動すると、だんだん気持ちに乗ってきて、気がついたら、1時間も勉強していた。

なんてことになるのです。

このように、行動するとそれにつられてやる気が出てくる現象を「作業興奮」と言うのですが、こうした性質が私たち人間にあるのであれば、それを活かさない手はありません。

とはいえ、

「その最初の一步が億劫だから、なかなか勉強が捗らないんじゃないか。」

という方もいらっしゃるでしょう。

確かに(笑)

ですが、そういう方は、1回の勉強時間をどれくらいに見積もっていますか。

もし、1時間や2時間という長い時間を見積もっているのだとしたら、それが、心理的ハードルになっている可能性が高いです。

であれば、まずは、

「5分だけ勉強する。」

ことから始めてみてください。

まずは、5分だけ勉強する。そして、5分経ったら強制的にやめる。やる気が出てもやめてください。

「いやいや、やる気が出たんだったら、気が済むまで勉強したらいいでしょ。」

いいえ、最初からペースを上げると、長続きしません。

なので、5分勉強したら2分でも5分でもいいので強制的に休憩を取ってください。

「まだ全然勉強できるなあ。」

と思えたらしめたものです。

また、続けて5分だけ勉強をしてください。この「5分勉強」のインターバルを2～3日続けられたら、今度は5分を10分にしてみましょう。

もちろん、10分勉強したら強制的に休憩を取ります。

そうやって、徐々に1回の時間を延ばしていき、自分にとって無理のない時間幅を見出したら、あとは、その長さで繰り返し勉強するだけ。

そして、やる気が下がったら、また5分に戻して超短期集中で勉強すると。

検定試験の勉強は長期戦。一番の敵は、「途中で諦めてやめること」です。

そうならないためにも、

「勉強は、行動が先、やる気が後。」

と覚えておきましょう。

### 勉強を続ける技術（3）－独学を一人でしない。

試験勉強というのは、基本的には孤独な作業です。

また、人間の心理というのは浮き沈みがあるもの。調子よく進んでいる時はいいですが、気分が乗らないときは、なかなか勉強が手につかない。

そして、最悪そのままフェイドアウトしてしまう。だからこそ、

「独学で本当に合格まで続けられるか。」

と、誰しも心配になるわけです。

確かに、独学には常に、

「途中でやめてしまう。」

というリスクがついて回ります。

では、どうしたらいいか。結論から言うと、

**【独学を一人でしない。】**

ということ。つまり、

**【定期・不定期に学習仲間と繋がり、一緒に勉強し合うべし。】**

ということです。

こうすることで、気分が沈んだり、スランプに陥ったりしても、仲間に支えてもらったり、励ましてもらったりしながら、克服することができます。

具体的には、

▼検定試験対策の facebook グループに登録する。

- ▼自分で facebook グループを立ち上げ、参加者を募る。
- ▼身近に学習仲間がいれば、定期的に来てファミレスなどで一緒に勉強する。
- ▼ZOOM で定期的に来て、勉強会をする。
- ▼LINE グループを作り、学習報告や情報交換をする。
- ▼検定試験対策セミナーなどに参加して仲間を作る。

等があります。

篠研でも、月1回「篠研サロンー検定対策部」と称した、メンバー同士の交流会や勉強会を行っています。

このように交流する機会をつくることで、

「交流会に参加すれば、●●さんに会える。」

と思えば、勉強が楽しくなりますし、

「今度会う時までには、ここまで勉強しておこう。」

と思えば、勉強にハリが出てきます。

結果、独学でも最後まで続けることができるわけですね。

こういうことが、独学を続けるためには非常に重要なのです。

**【独学を1人でしない。】**

ぜひ、そんな仕組みを生活の中に組み込んでみてくださいね。

#### 勉強を続ける技術（４）－学習記録をつける。

一時期、レコーディングダイエットが流行ったことがありました。日々食べているものやカロリーを記録することで、

「なんだ、毎日こんなに太るための行動をとっていたのか。」

と、今まで無意識だった「太る行動」を意識化でき、自然と「太る行動」をとらなくなり、結果、減量するというものです。

このダイエットの革新的なことは、最初から無理な食事制限や過度な運動をすることなく、ただ意識を変えるだけで自然と減量できてしまうこと。

「意識を変えるだけで減量なんて、本当か？」

と思われるかもしれませんが、実は効果絶大なのです。なぜなら、人間の言動の9割は無意識に行われているからなんですね。

この原理は、試験勉強にも応用できます。まずは、騙されたと思って1週間、毎日学習記録をつけてみてください。具体的には、

- ▼学習した時間
- ▼学習内容
- ▼参考書や問題集の学習したページ

そうすると、どうなるか。まずは、

「今日は、勉強が捗ったな。」とか、  
「今日は忙しくて、できなかったな。」

となるわけですが、ふと前日、前々日の記録と見比べると、

「今日は、昨日より勉強量が少なかったな。」

となって、

「そういえば、テレビを見る時間を半分にすれば、もう少し勉強できるなあ。」

とか、

「1時間も勉強すると、すっかり気力がなくなって、続けて勉強する気がなくなる。だったら、30分単位で勉強して、30分おきに10分休憩を入れれば、トータルで2時間ぐらい勉強できるんじゃないか。」

とか、

「通勤時間とか、バスを待つ時間にスマホで通信講座の講義資料を読めば、勉強できるなあ。」

と、いろいろ工夫するようになるのです。以前はただ漠然と、

「なかなか勉強する時間がないなあ。」

なんて思っていたのが、無意識にやってきた行動を意識的に見直すことで、

「意外と勉強時間、確保できるなあ。」

とか、

「実は、ボーっと生きていた（苦笑）」

ということ、そして、忙しいながらも勉強できる可能性に気づくのです。

実際、学習記録をつけ、今までの時間の使い方を改善すれば、タイムマネジメント力がかなりつくはずです。

もちろん、学習進度、学習効率も格段に上がっていきます。

「学習記録をつける。」

ぜひやってみてください。

## 勉強を続ける技術（５）－学習環境を整える。

勉強を続けるうえで、学習環境を整えるというのは、とても重要です。といっても、何も難しいことでも大がかりなことでもありません。

大事なことは、たった２つです。

- ・学習の阻害要因をできるだけ減らす。
- ・学習の促進要因をできるだけ増やす。

これだけです。

学習の阻害要因とは、文字通り勉強を邪魔しようとする要因です。なので、阻害要因をできるだけ減らすことが重要。

例えば、テレビ。

勉強しようと思った時に限って、面白そうな番組が始まったりするもの。なので、テレビのリモコンをあえて取りにくいところに置いておく。

そうすると、リモコンをわざわざ取るのが面倒になるので、テレビを見なくなり、結果、スムーズに勉強に向かうことができます。

また、今ならスマホもそうかもしれませんね。

スマホを身近なところに置いておくと、気になって気になって、10分も経たないうちにどうしても見たくなくなってしまいます。

実は、スマホには人の集中力を奪い取り、学習効果を下げる効果があると言われています。

スティーブジョブズが、自分の子どもには絶対スマホを持たせなかった理由も分かりますね。ですので、勉強中は、スマホを手の届かないところに置いておく、できれば隣の部屋に置いて勉強するといいでしょう。

一方、学習の促進要因とは、学習を促進させる要因のことを言います。なので、促進要因をできるだけ増やすことが重要。

皆さんは、どんな時

「勉強しなきゃ。」

って思いますか。

「私は、検定試験の参考書が目に入った時、勉強しなきゃと思う。」

そんな方もいらっしゃるでしょう。

であれば、家の中の目立つところ、例えばリビングのテーブルの上に、いつも検定試験の参考書を置いておけばいいのです。

そして、食事をするたびにその本が目に入り、

「ご飯を食べたら勉強しなきゃ。」

となるわけです。

かつて、篠研の検定会員の方で、ご自宅のトイレの壁に音声学で使う口腔断面図の五十音表を貼って勉強した、という方がいらっしゃいました。

トイレは、必ず1日に何度も使うところ。口腔断面図を見るたびに、学習が動機づけられるわけですね。

このように、学習環境を整えることは、学習を続けるうえで非常に重要です。なぜなら、いちいち

「さあ、勉強しよう！」

と意気込んだり、決意しなくていいからです。

ごく自然に、気がついたら勉強していた。実にストレスなく続けることができるわけですね。

皆さんにとって、学習の阻害要因、促進要因は何ですか。

- ・学習の阻害要因をできるだけ減らす。
- ・学習の促進要因をできるだけ増やす。

一度意識して、学習環境を整えてみてください。

## 勉強を続ける技術（6）－合格した姿をイメージする。

試験勉強を続ける一番のコツ。それは、

「合格した姿をありありとイメージする。」

ことです。

ただぼんやり「合格したらいいなあ」ではありません。

8Kテレビレベルの鮮やかな映像で事細かくイメージすることです。例えば、仕事から帰って家の門のポストを見ると、中になにやら大きな茶封筒が入っている。

「なんだろう」と思って、ポストから出そうとするも、封筒の角が引っかかってなかなか出てこない。やっとのことで取り出してみると、差出人は日本国際教育支援協会。そして、表面左下には、赤い字で

「令和●年度 日本語教育能力検定試験結果通知書合格証書 在中」

と書いてある。

びっくりして、玄関の門を開けて、靴を脱ぎ飛ばして、急いでリビングに行って、慌てて固定電話の下の引き出しに入っているハサミを取り出し、封筒を開けてみると、中から「合格証書」が出てきた！

「やったー！！！」

そして、半自動的に篠研への合格報告メールの文面を考えると(笑)

どうですか。ワクワクしてきませんか。

話はこれで終わりません。

検定試験に合格して、晴れて日本語教師として活躍している自分の姿もイメージしましょう。

もちろん8Kテレビレベルの鮮やかな映像で(^\_^)

20人の学習者を前に、教壇に立って颯爽と授業をするご自身の姿です。

あるいは、オンラインでプライベートレッスンをやる姿でもいい。

はたまた、シャキッとスーツを着て、大企業の一室でビジネスパーソンを相手にビジネス日本語を指導しているのも格好いいですね。

いかがですか。

ワクワクを通り越して、ゾクゾクしてきたのではないですか。これは、遠い未来の話ではありません。2～3年後、いや1年後のあなたの姿なのです。

あなたはもう夢を実現したわけですから（予祝ってやつですね）、後は勉強するだけ。こうなれば、もはや勉強せずにはおられないのではないのでしょうか。

毎日イメージして、気持ちを鼓舞してください。そうすれば、楽しく勉強を続けることができるでしょう。私はこの方法で、大学院に合格することができました。効果は絶大です。

ぜひ、毎日イメージして、毎日楽しく勉強してくださいね。

## 令和4年度新出題範囲の新傾向・変更点（1）

これまで何度もお伝えしてきましたが、令和4年日本語教育能力検定試験から出題範囲が新しくなります。具体的には、これまでの出題範囲から、平成30年に文化庁が出した

「必須の教育内容」

に基づいて出題されることになります。

詳しくは、こちら。

日本語教育能力検定試験の出題範囲の移行について

<https://bit.ly/3NxegxI>

ですので、

「これから検定試験の勉強をする。でも、どの講座を選んだらいいのかわからない。」

という方は、まずは、新出題範囲を完全に網羅した講座を選ばないとかなり高い確率で失敗します。少なくとも、これまでの試験の合格者数で選んではいけません。そもそも試験内容が違うからです。

ところで、これまでの出題範囲と新しい出題範囲では、具体的に何がどう違うのでしょうか。とても気になる場所ですね。そこで、今回から数回にわたって、

「令和4年新出題範囲の新傾向・変更点」

と題して、お話をしようと思います。

第1回目の今回は、

『誤用分析』から『中間言語分析』へ」

です。

これまでの検定試験の出題範囲では、「誤用分析」という項目がありました。

具体的には、「4 言語と教育」内の

「1. 言語教育法・実技（実習）」内の項目7です。ところが、新出題範囲では「誤用分析」

という項目はありません。

かわって、「中間言語分析」という項目があります。名称こそ変わったものの、おそらく中身はさほど変わらないと思われます。なのに、なぜ名称が変わったのか。

これは、誤用に対する考え方がこの10年で大きく変化したからと考えられます。かつての誤用は、第二言語学習を妨げる悪しきものでした。

従来のは、要は、誤用は学習者が教師の教えたとおりにしないから引き起こされるもの。

ところが、現在の第二言語習得論では、

「学習者は、学習の途上で母語とも日本語とも違う独特な言語体系（＝中間言語）を形成する。その言語体系をブラッシュアップする過程で、学習者はさまざまな試行錯誤を行う。その結果、どうしても表面的に誤用が現れてしまうが、それは学習者なりに学びをしている証拠なのだ。だから、誤用は悪いものではなく、むしろ評価すべきものなのだ。と同時に、誤用は学習者の中間言語を反映したものである。」

という考え方に変わってきました。

確かに「誤用」と言ってしまうとどうしても「悪いもの」というイメージが拭えませんが、

というわけで、「誤用研究」ではなく、

「中間言語研究」という用語に変更したのだと考えられるわけです。

このように、出題範囲の変更点を見てみると、日本語教育学の変化や潮流が垣間見れて面白いですね。

## 令和4年度新出題範囲の新傾向・変更点(2)

次は、

「新設！日本の在留外国人施策」

です。

これまでも、例えば

- ▼留学生 30 万人計画
- ▼新たな在留資格の創設

等が検定試験で出題されてきました。

ですが、ここ数年、少子高齢化による労働人口の減少と国内市場の縮小を背景に、多文化共生社会を目指すべく、日本の在留外国人施策が急ピッチで進められています。

また、学習者の多様化も一段と進み、さまざまな在留資格を持つ学習者に日本語だけでなく生活面、法律面も含めてサポートする機会が増えました。そのため、今回新たに

「日本の在留外国人施策」

という項目が立てられたのだらうと考えられます。この項目の主な内容は、以下の2つと考えています。

- (1) 多文化共生社会の実現に向けた政府の在留外国人施策
- (2) 出入国及び難民認定法（入管法）の改正・動向

(1) については、何と言っても以下の2つが大きな目玉。

- ▼外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（2018年）

<https://bit.ly/3cqGcl4>

▼日本語教育の推進に関する法律

<https://bit.ly/30DBSvZ> (2019年)

「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」は、ほとんどの省が参加して構成されているもので、まさに政府一丸となって総力戦で取り組んでいく形となっています。

今後は、この対応策に沿ってさまざまな具体的な施策が国レベルで打ち出され、それが、全国の自治体に降りていって、多文化共生社会の構築に進んでいくことになるでしょう。

また、「日本語教育の推進に関する法律」は、日本語教育に関するものとしては初めてできた法律です。日本語教育の法的な後ろ盾ができたわけですから、今後はこれを拠り所として、日本語教育が大きく変化していくことでしょう。

そして、(2)については、これまでも1年・2年に1回のペースで改正が行われています。

最近の入管法改正（出入国在留管理庁）

<https://bit.ly/3qLzz5j>

ここ数年、新たな在留資格が矢継ぎ早に新設されましたが、今後も新たな在留資格が出される可能性は大いにあります。

何より、従来「入国管理局」だったのが、平成30年の改正で、「出入国在留管理庁」に格上げになり、規模も大きくなりました。

従って、今後は在留管理もより強力になっていくと思われます。

というわけで、「日本の在留外国人施策」は、日本語教師にとっては、目の離せないテーマとなったわけですね。

### 令和4年度新出題範囲の新傾向・変更点(3)

次は、

「出た！著作権」

です。

これまでの検定試験の出題範囲では、

「知的所有権問題」

という項目がありました。

「著作権」に比べると、ちょっとふわっとした感じのタイトルです。ところが、今回ストレートに

「著作権」

という項目に名称変更されました。それは、取りも直さずここ10年ほどの間、日本語教育界において著作権の重要性が認識され始めたからです。

それまでは（というか、今も）本業界は著作権に対する認識が驚くほど低いという現状がありました。例えば、

「学習者は経済的に苦しいから。」

というのを理由に、本来学習者に買わせるべき問題集やワークブックを買わずに、学生分コピーして授業で配布して使ったり。

問題集やワークブックは、本来授業で使うことを前提に作られていますので、たとえ数ページであっても学習者に買わずにコピーを使用したら、完全に著作権法違反です。

このように言うと、

「そうかもしれないが、バレなきゃいいだろう。」

という学校関係者の方がいるのですが、内部告発によって損害賠償になったケースがあります。

留学生向け予備校、本を丸ごと複製出版社が損害請求へ

<https://bit.ly/3CDUgSP>

しかも、今は SNS が普及していますので、バレる可能性は極めて高いと思われます。なにより、こうした違法コピーがまかり通ると、出版社も採算が合わなくなり、結果、せっかくの教材が絶版になるということもあり得ます。

つまり、現場が目の中の薄利に目が眩んだ結果、大事な学習リソースを失ってしまうということになりかねないというわけなんですね。なにより、ご自身の勤務校が著作権法違反でニュースになるなんて、こんな気分の悪いことはないですよ。

ただ、この著作権法は、なかなか面倒は側面を持っています。実際、グレーな部分もあります。

また、インターネット上の著作物に対して著作権法が追いついていないという指摘もあります。

そのようなこともあって、著作権法もちょこちょこ改正されています。

直近の改正はこちら。

令和3年通常国会 著作権法改正について

<https://bit.ly/3HGztSr>

また、著作権法では、著作権のある著作物を自由に使える例外措置があります。これを知っているか否かで、学校内での著作物の扱いが変わってくるはずですよ。

ただ、そうしたことがあるだけに、ちゃんとした知識を持っていないと、逆にこれが落とし穴になって、うっかり触法行為を犯してしまうことにもなりかねません。

だから、日本語教育の現場に立つ前に著作権についてしっかり勉強しておく必要があ

るというわけですね。

ということで、今回「著作権」という名称変更が行われたのではないかと推察する次第。